



タンザニア 清水範子ワーカーと村人たち

みなで生きる

JOCS

日本キリスト教海外医療協力会

～キリスト教医療ミッションの現場から～③ 大江 浩 (JOCS 総主事)

タンザニア

幼子の命を守る

大地に根を張って

JOCSは二〇〇七年にタンザニア・タボラ大司教区へ清水範子ワーカーを派遣しました。タンザニアを取り巻く周辺諸国は紛争が絶えず、同国自体の貧しさにも関わらず（失業率は44%超）、難民庇護国となつてしまふ。一昨年度、六〇〇キロの道のりをひたすら走り、清水ワーカーの活動地を訪れました。車窓から見たバオバブの木は、大地にしっかりと根を張って生きていました。

「イプリ保健センターのほとんどの子ども入院は、マラリア・低栄養・貧血によるものである。子どもたちは繰り返し入院してくるケースもあり、最終的には亡くなってしまふ。この悪循環をどのように改善していけるのか。タボラの人々と共に生きていくこと、共々生きていくことを一緒に考えていきたい。清水ワーカー月報報告。タンザニア・アフリカのことを少し紹介したいと思います。」

「サハラ以南のアフリカでは、熱を出した子どもの三分の一しか抗マラリア薬を使っていない。出生登録率そのものが著しく低い。タンザニアでは富裕層と貧困層との間で大きな格差があり、最も富裕な20%の層では子どもの25%が登録されているのに対し、最も貧しい20%の層ではわずか2%しか登録されていない（平均8%）。サハラ以南のアフリカだけで、HIVに感染した三〇〇万人のおとな（十五・四九歳）のうち、一三二〇万人（57%）が女性。二〇〇六年の段階で、HIVとともに生きる十五歳未満の子どもの数は三三〇万人に上る。サハラ以南のアフリカだけで、二〇一〇年までに約一五七〇万人の子どもの命がエイズによって奪われる見込みである。」

「世界子供白書二〇〇八」新しい命の誕生を守る、そしてその未来を支えることが清水ワーカー・タボラ大司教区の保健部門のスタッフのミッションです。生まれる前のHIVの母子感染を防ぐこと、児童期の大切なときにエイズによって親を失う子どもたちを少なくすることも大切な役割です。ただひたすら祈らざるを得ません。

「子どもがエイズによって孤児となる見込みである。」（世界子供白書二〇〇八）。新しい命の誕生を守る、そしてその未来を支えることが清水ワーカー・タボラ大司教区の保健部門のスタッフのミッションです。生まれる前のHIVの母子感染を防ぐこと、児童期の大切なときにエイズによって親を失う子どもたちを少なくすることも大切な役割です。ただひたすら祈らざるを得ません。

「サハラ以南のアフリカでは、熱を出した子どもの三分の一しか抗マラリア薬を使っていない。出生登録率そのものが著しく低い。タンザニアでは富裕層と貧困層との間で大きな格差があり、最も富裕な20%の層では子どもの25%が登録されているのに対し、最も貧しい20%の層ではわずか2%しか登録されていない（平均8%）。サハラ以南のアフリカだけで、HIVに感染した三〇〇万人のおとな（十五・四九歳）のうち、一三二〇万人（57%）が女性。二〇〇六年の段階で、HIVとともに生きる十五歳未満の子どもの数は三三〇万人に上る。サハラ以南のアフリカだけで、二〇一〇年までに約一五七〇万人の子どもの命がエイズによって奪われる見込みである。」



カンボジア 諏訪恵子ワーカー

カンボジア

泣くものと共に泣き、喜ぶものと共に喜ぶ

JOCSは、カンボジアで長く続けてきた母子保健活動を二〇〇六年十二月に終了し、諏訪恵子ワーカー（看護師）は二〇〇八年二月から新しいミッションに従事しています。レナセルル女性と共に歩む会（RWV）という日本のカトリック礼拝会のシスターたちが運営する女性のためのシェルターでの活動です。

レナセルルとは、スペイン語で「生まれ変わる」という意味で、二〇〇九年一月現在、女性八人と同伴児九人（うち一歳未満児四人）の計十七人が入居しています。シェルターで暮らす女性たち（クライアント）は性的搾取やDV被害の犠牲者で、諏訪ワーカーの働きは入居者の安全、安心、健康的な日常生活を守り、再び活動に感銘しました。月例報告より。



カンボジア 諏訪ワーカー レナセルルとスタッフたち

「レナセルルとは、スペイン語で「生まれ変わる」という意味で、二〇〇九年一月現在、女性八人と同伴児九人（うち一歳未満児四人）の計十七人が入居しています。シェルターで暮らす女性たち（クライアント）は性的搾取やDV被害の犠牲者で、諏訪ワーカーの働きは入居者の安全、安心、健康的な日常生活を守り、再び活動に感銘しました。月例報告より。」

「レナセルルとは、スペイン語で「生まれ変わる」という意味で、二〇〇九年一月現在、女性八人と同伴児九人（うち一歳未満児四人）の計十七人が入居しています。シェルターで暮らす女性たち（クライアント）は性的搾取やDV被害の犠牲者で、諏訪ワーカーの働きは入居者の安全、安心、健康的な日常生活を守り、再び活動に感銘しました。月例報告より。」

「レナセルルとは、スペイン語で「生まれ変わる」という意味で、二〇〇九年一月現在、女性八人と同伴児九人（うち一歳未満児四人）の計十七人が入居しています。シェルターで暮らす女性たち（クライアント）は性的搾取やDV被害の犠牲者で、諏訪ワーカーの働きは入居者の安全、安心、健康的な日常生活を守り、再び活動に感銘しました。月例報告より。」

「レナセルルとは、スペイン語で「生まれ変わる」という意味で、二〇〇九年一月現在、女性八人と同伴児九人（うち一歳未満児四人）の計十七人が入居しています。シェルターで暮らす女性たち（クライアント）は性的搾取やDV被害の犠牲者で、諏訪ワーカーの働きは入居者の安全、安心、健康的な日常生活を守り、再び活動に感銘しました。月例報告より。」

「レナセルルとは、スペイン語で「生まれ変わる」という意味で、二〇〇九年一月現在、女性八人と同伴児九人（うち一歳未満児四人）の計十七人が入居しています。シェルターで暮らす女性たち（クライアント）は性的搾取やDV被害の犠牲者で、諏訪ワーカーの働きは入居者の安全、安心、健康的な日常生活を守り、再び活動に感銘しました。月例報告より。」

「レナセルルとは、スペイン語で「生まれ変わる」という意味で、二〇〇九年一月現在、女性八人と同伴児九人（うち一歳未満児四人）の計十七人が入居しています。シェルターで暮らす女性たち（クライアント）は性的搾取やDV被害の犠牲者で、諏訪ワーカーの働きは入居者の安全、安心、健康的な日常生活を守り、再び活動に感銘しました。月例報告より。」

「レナセルルとは、スペイン語で「生まれ変わる」という意味で、二〇〇九年一月現在、女性八人と同伴児九人（うち一歳未満児四人）の計十七人が入居しています。シェルターで暮らす女性たち（クライアント）は性的搾取やDV被害の犠牲者で、諏訪ワーカーの働きは入居者の安全、安心、健康的な日常生活を守り、再び活動に感銘しました。月例報告より。」

「レナセルルとは、スペイン語で「生まれ変わる」という意味で、二〇〇九年一月現在、女性八人と同伴児九人（うち一歳未満児四人）の計十七人が入居しています。シェルターで暮らす女性たち（クライアント）は性的搾取やDV被害の犠牲者で、諏訪ワーカーの働きは入居者の安全、安心、健康的な日常生活を守り、再び活動に感銘しました。月例報告より。」

「レナセルルとは、スペイン語で「生まれ変わる」という意味で、二〇〇九年一月現在、女性八人と同伴児九人（うち一歳未満児四人）の計十七人が入居しています。シェルターで暮らす女性たち（クライアント）は性的搾取やDV被害の犠牲者で、諏訪ワーカーの働きは入居者の安全、安心、健康的な日常生活を守り、再び活動に感銘しました。月例報告より。」

NOOSHINKI
KENSHIN TOKI

献身のとき

No.1



鈴木岩夫(筑紫教会牧師)

「神の御旨は不思議に満ち、
「肉の思い」を超えている。」

筑紫教会は、故鈴木吉三郎牧師による開拓伝道によって生まれ、教会設立記念日は戦後間もなくの一九四六年十一月二五日、設立認可は'49年三月、その苦勞の程は、この日付からでも察していただけるものと思えます。

「52年には、幼稚園を併設、教会も幼稚園も戦後を生き抜き、漸く形が整ってきたのですが、諸事情と更なる発展を願う、福岡市博多区から現在の大野城市へと移転いたしました。教会も幼稚園も、大きな転機をむしる危機を迎えました。特に、幼稚園は、その時点で通園して、園児への責任があります。そのため、送迎バスを一台増やしました。その送迎バスの運転手として働くようになったのが、初代牧師の三男に当たります。工学部を出て、来勤務して、自動車を運転して、退社して、幼稚園に就職いたしました。財政的な事を考慮すると、他の道はなかったのではないかと思います。

「家業を継ぐために牧師になつた」という評が存在することは承知して、しかし、それは事実とは違っています。眞理牧師が癒され、筑紫教会牧師として【復活】すると確信して、



筑紫教会礼拝堂、手前に畳の席も

第26回 キリスト教農村伝道推進協議会 研修会及び総会



一月十九日(二〇日)に於いて秋田県鷹巣教会で、「子どもたちの未来の食を見つめて」と題して行われた。講師は安田節子さん(食政策センター・ヒジョン21)。グロバリズムで、食べ物もあらゆる国から輸入することになり、安全性や質が低下してきたことなど、わかりやすくお話していただいた。

ある鶏舎では、二羽が一つのゲージのなかで立つ場所さえなく、交互に背中に乗っていた。隣の鶏をつつかないようにくちばしを切り、歩けないので爪は伸び放題、ウィンドレスといつて自然の風も光も入らない。抗生物質入りのお餌、その不自然な鶏舎の中でウィルスが耐性を持つ力を強めていくことは恐ろしいこと。しかし、自然界で、ウィルスが鳥に寄生し、鳥は抵抗力をつける、こののを繰り返すのは本来あるべき姿なのだというお話に納得。

ひととき

齊藤 實さん

「できる先輩」を目指して



1927年生まれ。下谷教会員。YMCA 史学会理事長、賛育会顧問

十九年に終戦を迎えた。高等商船学校を辞めるにあたっての教官の面接で、「これからはあなた自身がしっかり生きていかなければならぬ」と教えられた。自分の中にも「俺がしっかりしなければ、日本はダメになる」との自負があった。しかし、今までの軍国主義に代わる、自分の中心に据えるものが見つからなかった。何を中心にすればいいのか、と思いながら手に取ったのが聖書だった。

150周年、言わずと知れた日本プロテスタント伝道開始150年である。150周年という数え方そのものがベッテルハイムによる琉球伝道を捨象し、沖縄を無視した暴挙として反対を唱える人たちがいることはよく知っている。しかしそのベッテルハイムを背景に持つ日本聖公会は九月にカンタベリー大主教を招いて日本伝道150周年を記念する。反対する方は反対の立場からの伝道の集いを持つなら良い。この記念すべき年を東京信徒会は全員が祈りを合わせた。